

テークアウトに活路

新型コロナ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で市民が外食を控え、売上げの激減した県内の飲食店が「持ち帰り」「出前」に活路を見いだそうとしている。県は要請に応じ、4月18日より5月6日に店内食の営業（テークアウトを除く）を休むなど条件に適合すれば、事業者に協力が支給されることも動きを後押ししている。地元商工会や自治体も、専用の応援ウェブサイト開設や助成

売り上げ激減 県内の飲食店



テークアウトのドライカレーを来店者に渡す古田早苗さん（岐阜市美殿町のさなえ食堂）

協力金支給やサイト開設後押し

金で積極的に応援して、店内の営業をやめ持ち帰りのみに切り替えている。

岐阜商工会議所には「テークアウトを十分に宣伝できていない」という相談が多く寄せられているという。さらに今後は新規参入の相談が増える想定。岐阜市などとともに20日、PRサイト「ウチ店」のお店の味をおうちで楽しもう」を設けた。「職場や家での食を見つめる手段としてサイトを活用することと、新たにテークアウトを始めようとする店舗が増えること」を期待する。

サイトは、掲載27店舗が始まった。地図または一覧表から、店の住所や電話番号、料理の中身、値段などの情報にたどりつける。サイトに掲載されているドライカレーの人数店「さなえ食堂」（岐阜市美殿町）は18日、掲載を希望する事業者

金で積極的に応援して、店内の営業をやめ持ち帰りのみに切り替えている。期間中断したくないことや生活費のことなどがあり、完全な休業に踏み切れないという。オーナーの古田早苗さん（56）は「街を歩いている人が少なく、不安も大きい」という。21日昼に来店した自営業の女性（48）は「高2と中3の子供が家におり、仕事の合間に昼食を持って帰れるのは都合がよい」と説明した。

持ち帰り弁当の販売などを始めた岐阜市内の飲食店を応援するサイトのトップページ



向けには、感染予防策など掲載条件を載せている。また、食中毒の発生や苦情など店内の飲食とは別のリスクもあり、保険への加入なども助言している。

こうしたサイトは各地で開設されている。飛騨地方の「そしゃテイクアウト」や多治見市の「TAJIMEALGO（タジミールゴー）」など。また瑞穂市は、7万円を上限として新規参入経費を補助するなどの助成金も新設した。【花岡洋二】